



桜の木の下で in 京都植物園 (デイユニット2)

センター
便り

絆
きずな

第193号

発行所

社会福祉法人
西陣会

HP: <http://www.nishijin.org>
E-Mail: nishijinkai@nishijin.org

〒602-8464
京都市上京区元誓願寺千本東入ル
TEL (075) 451-8971
FAX (075) 451-5700

発行者: 南大路 文子
編集責任: 土屋 健弘

郵便振替口座
01030-5-23086



ホームページでも
ご覧になれます

当法人への寄付金は、課税控除対象となりますので、その為の受領書が必要な方はお申し出下さい。

「絆」によせて

評議員 久門 誠

西陣会の評議員をお受けしてまだ二年ほど、これと
いったことは本当に何も
きておりませんが、平素よ
り皆様に大変お世話になっ
ております。本務は公益社
団法人京都市身体障害児者
父母の会連合会で、その事
務局や、運営する事業所の
職員として働いています。

先日京都市ご担当から、
コロナ関係の補助金につい
ての問い合わせ（昨年夏の
感染者数）がありました。
その際に記録を振り返って
みたのですが、感染者の数
には表れなくても、熱発者
や濃厚接触者の判断や対応
など、今振り返ってもうん
ざりするほどの超過業務が
ありました。西陣会の各事
業においても、きつと同様
あるいはそれ以上のことが
起こっていたことと存じま
す。補助金支出の根拠を確
認されているだけなので
が、なんともやりきれない
思いを感じました。あれだ
け過重であった業務が、ご
く一部の事象だけで評価さ
れてしまうということへの
思いです。

少しずつ以前の活動が戻
りつつあることにはどこか
でほっとしているのです
が、様々な面でもとても厳し
い三年間でした。当事者や
ご家族に課せられた制約や
負担ははかりしれないもの
があります。また職員も
「エッセンシャルワーカー」
などと表現されますが、実
際に感染の現場で支援した
としてもそれに見合うだけ
の手当があつたわけではあ
りません。制度で得られる
収益の実態、さらに現場に
手厚く人を配置するほど、
一人当たりの人件費を薄く
しなければならぬような
構図が、ただでさえ人手不
足の現状に拍車をかけてい
ると私は思います。

戦争、災害、差別、排
除、貧困、分断：少し社会
で起きている出来事を見渡
してもあまりにも重く辛す
ぎる課題が山積していま
す。様々な生きにくさを抱
える人が支え合うのではな

く、憎み合うような構図を感じることもあります。それに対して自分ができるところが極めて微力であることを感じます。実際に自分自身の中にもたくさんの矛盾や葛藤、弱さも感じています。社会福祉の活動は自分にとってもどこかで希望でありたい、そんな思いで仕事を続けている気がしますし、西陣会の活動にも触れさせていただいているように思います。

過日「六十周年」の動画を拝見した時に、特に三つのことを思いました。一つは長年人の幸せや豊かな地域社会を目指して活動をしてこられたこと、福祉の理念に徹底して根差した実践の姿勢です。それはなによりも当事者の方々、そしてご家族関係者、地域の方々を軸におられることなく歩んでこられたということだと思います。そこから私は学びたいですし、私自身もそうありたいと思います。そして、この「絆」の新年号を見てもいつも思うことですが、お一人おひとりの職員さんに焦点が当たる

場面を作っておられることです。とても素敵なことだと思います。

三つ目は、同志社大学との関係が深いことです。私もご縁をいただいて、一年生八日間実習の送り出しを昨年から一部担当しており、大変ご迷惑もおかけしております。特に現場の当事者の方々、職員の方々にはこの場を借りて心からの御礼をお伝えしたいです。送りがとうございます。送り出す前、「障害」についての不安を表現する学生があまりに多いことに、とても辛い気持ちになります。それでも貴会でお世話になり「最初は抵抗があったけれど、今ではとても充実している」「不安がなくなっただ」といった声を聞きます。これまでの全員が充実感や楽しさを語っています。感謝の気持ちで一杯です。他にも、統括責任者の土屋さんには弊会事業所の第三者委員もおつとめ頂いております。また、様々な研修等で役員や職員の方とも一緒にすることが多く、多く

のご縁をいただいています。

そして、過日京都市ボランティアセンターが主催する「想いを聴く講座」に本務機関の会長が登壇するのに参加したところ、同時に登壇されたのが西陣会を利用される方の親御さんでした。ここにもご縁を感じました。子育てのお話から今日まで、様々な思いを拝聴しながら、こうした思いと共にあるように努めたいと思いました。お二人は共通して「様々な人に支えられました」とおっしゃっていました。それは私も同じことだと思います。数えきれないほどの多くの失敗をしてきて、今もしています。それでもどこかでそうした弱い自分も認めながらも、実践を重ねていきたいと思えます。この機関紙のタイトルは「絆」ですが、私は「弱さを絆に」（浦川べてるの家の理念より）という言葉が好きでしたので、これも何かつながるところではと思っています。どうぞ今後ともよろしく願っています。

江田島からのお手紙

えん（縁）もたけ（竹）なわ つながり（縁）が大きな力に

元西陣会職員 小林 恵子

西陣会六十周年本当におめでとうございます!!

護にも取り組むことができました。

新しい形のオンラインにしてください、本当にありがとうございます！六十周年のオンラインには途中からの参加ではありませんが、西陣会の理念のお話をあらためてお聞きし、西陣会で学んだことを祖父母の介護を通して、たくさん実践したことを思いました。

私は西陣会を退職後、

パーティなど、遊びや楽しみ、笑顔になれる時間をなるべく取り入れていきました。そうすると、周りの家族も笑顔が増え、皆が元気になっていきました。一人一人の思いを大切に……

三十代前半でいきなり介護家族となり、とてもシロツクでした。一人のために苦難をもろともせず、その人に必要なことを必要なだけ用意される西陣会に関わる方のお姿にとっても大きな力をいただき、そのことが大きな支えとなり、祖母の介

あつたから、それをイメージしながら実践をしてきま



年神さまは尖ったものがお好き。竹の門松。

昨年末には竹細工同好会を立ち上げ、一昨年くらいから時折竹のイベントもしております。ホテルの門

自身は陸の孤島のようになったことがあります。今の人は色々なつながりが薄くなっているのが大きな問題だと改めて感じました。六十周年のオンラインでのお話も目から鱗で、この

夫の転勤で瀬戸口沿岸にはあちこちに行っていますので、地方の良い所をいろいろな人に知ってもらいたいと、住んでいる場所の良いところをSNSで発信し

たりしております。今いる江田島は観光地でもあるので、海の幸に山の幸に景色もきれいです、よろしければお越しください。オンラインから参加し、皆様のお元気な様子やご活躍の様子を拝見できましたこと、西陣会の熱気に触れられたこと、いろいろな思いが錯綜し、嬉しさもあり感激のあまり言葉が出てこないですが、本当にありがとうございます。

西陣会での学びがなかったら、認知症になってできないことやわからないことばかりに目が行き、祖母のできないところの介護に疲れ、祖母の思いに目が行くこともなく、家で抱え込

思っております。今は広島県の江田島で、竹を通して地域のつながりをつくりたいと思っております。

ます。

祖母の介護を通して、私自身は陸の孤島のようになったことがあります。今の人は色々なつながりが薄くなっているのが大きな問題だと改めて感じました。六十周年のオンラインでのお話も目から鱗で、この

先、竹の活動をどのように進めていくのがよいのかの大きなヒントをいただきました。竹を通して、人とひと、人と自然、人と社会とお金などつながりますよ、微力ながらではありませんが、まずは私が楽しんでまいります！

皆様のお元気な様子やご活躍の様子を拝見できましたこと、西陣会の熱気に触れられたこと、いろいろな思いが錯綜し、嬉しさもあり感激のあまり言葉が出てこないですが、本当にありがとうございます。

した。その人の希望する生活に向けて、最大限の努力をする不屈の西陣会の姿勢に私は日々感銘を受けておりました。できないと割り切るのではなく、どうしたらできるのかを考え続け、なるべく家でも祖母たちの思いに寄り添い希望に沿っていきましました。それも周りを巻きこんで様々なかたのお力をお借りいたしました。

み、困ったもんだ、認知症になったから仕方がない、歳だから仕方がない、施設に行くしかないとなっていったと思います。祖母の介護では、西陣会でご紹介をいただいた「認知症の人と家族の会」をはじめ、医療介護サービス、地域の方にもたくさんのご恩をいただきました。繋がりがとても大きな力となりました。祖父は無事に穏やかな大往生ができました。今度は御恩送りをしていきたいと思っております。

松をご依頼いただき、今年には試作にたくさん門松を作る予定です。この門松、真心はこもっておりまます！また、ミニ門松キッドの注文もいただきました。もし今後ともご依頼いただけるのなら、一部分が認知症デイサービスの人の手仕事になり、お年寄りの収益になればと考えております。竹を通して老若男女がつながり豊かな時間を過ごせたらと考えております。



子どもたちと一緒に作った竹アクセサリー



広島テレビ取材 チッチキチー親子と（ハハ）

地域生活支援センター

デイセンターふらっと

ありがとうの花を咲かせて

辻 礼子

私はデイセンターふらっとで、ご利用者さんの外出活動に同行し、地域の皆様とのふれあいのひとときを大切にしています。

その中の一つ、ペーパー配達では児童館や他の福祉事業所、医院などにトイレットペーパーの配達に行きます。力持ちのご利用者さんが元氣一杯に届けてくださる姿に、受け取られる方も笑顔で「ありがとう」と言葉返していただき、花が咲いた瞬間です。

その他に、市民しんぶんを、月に二回の割合で町内の組長さんに配りに行くのですが、それもご利用者さんがご自身でインターホンを押して対応して下さったり、不在のお宅にはポストにしんぶんを入れてくださっています。直接手渡し

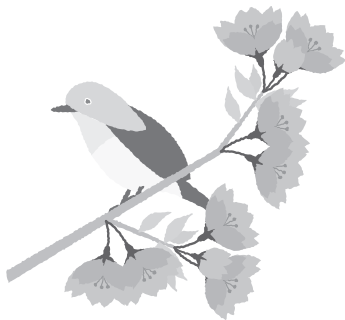
た時に組長さんが「いつもありがとう。」と掛けていただく言葉に、ご利用者さんも笑顔やピースをして応えて下さり、その光景はとても微笑ましく心が暖かくなります。

雨の日以外には近くの公園に行き、ゴミを拾ったり落ち葉を掃いたり、公園内の清掃をして下さっています。クリーンウォークではセンター周辺を歩きながら、器用に火ばさみを使って吸い殻や空き缶を拾って下さっています。私が見逃す小さなゴミも透かさず見つけられるんですよ。いずれも近くを通られた方から「ありがとう。」と声を掛けて頂き、街も心もピカピカになった気がします。

昨年より始まった教会清掃では、京都福音自由教会

にてトイレ掃除や掃除機掛け、モップ掛けを分担しておこなって下さっています。掃除後のお茶休憩時には、親しみやすい話題を提供して話されるおかげで、緊張されたご利用者さんの心も解き放たれていくように感じます。とても一所懸命取り組んで下さる姿に、牧師さんはじめ教会の方々も大変感謝され、そのお返しにと先日は教会のクリスマス会に招待されて歌やダンスを披露して下さり、素敵な時間が過ごせたと思っています。

ご利用者さんの一つ一つの活動が、私自身のやりがいにつながっています。そして地域の方々と、一人一人魅力的なご利用者さんとの懸け橋になれば…と願ってやみません。



西陣会居宅サービス係

来年度に向けて

サービス提供責任者 下 口 早蓉子

昨年の四月よりサービス提供責任者となり、あつという間に一年が経ちました。私自身、何が出来たのか、もつと出来ることがあっただろうな…と思いつながら一年を振り返っています。

ですが、サービス提供責任者となり、ご利用者さんの支援のことを考えたり、ご利用者さんやご家族の方から直接お話を伺ったり、ご希望をお聞きしたり、関係間で集まり会議に参加したりと、関わりが増えたと思っています。どの関わりも大変貴重で、勉強の日々でした。

また、今まで先輩方とご利用者さん、ご家族の方が作り上げてきて下さったことを大切にしながらも、少し変化があっても良いのかも！何か新たなことにも挑戦していきたい気持ちもあります。一人ひとりのご利用者さんが日々安心して

快適に過ごせるように、楽しく安全にお出掛けが出来るように、支援に入りながらたくさんの声をお聞きしたいと思います。伝えたいけれど、なかなか言いえないこともあるかと思いますが、その小さなサインにも気付けるようにしていきたいと思えます。

今回、医療的ケア専門部会研修を受けさせていただき、医療的ケア児を育てておられるお母様からお話を聞かせていただく機会がありました。その中で『色んな制度を使っていく中で横の繋がりが出来、チームで支えてもらっている。何かあればすぐに相談が出来て解決が出来ている。身近にちよつとした話を聞いてくれる人がいるだけでも支えられるんです』と聞かれました。私も気軽に話してもらえよう存在になりたいと思います。

地活ふらっと

「コロナ禍の先にあるもの」

所長 宮崎 一弥

私は二〇二二年の新春号絆において、「新しい「夜ふら」の形としてさらに進化した活動を考えていくことがWithコロナの社会における「夜ふら」の在り方なのだろう。」と書いて文章をまとめた。

それから一年が過ぎ、マスクの着用についても、個人の主体的な選択を尊重し、着用は個人の判断に委ねる、と変化してきている。

そして、ゴールデンウィーク明けには、感染症法上での分類として、二類から五類へと移行する方針となっている。

さあ、晴れて夜ふらも新生活夜ふらとして復活できるかと思っているが、果たして上手く機能するのだろうか。「個人の判断に委ねる」という美しくもあり、無責任ともとらえることができ

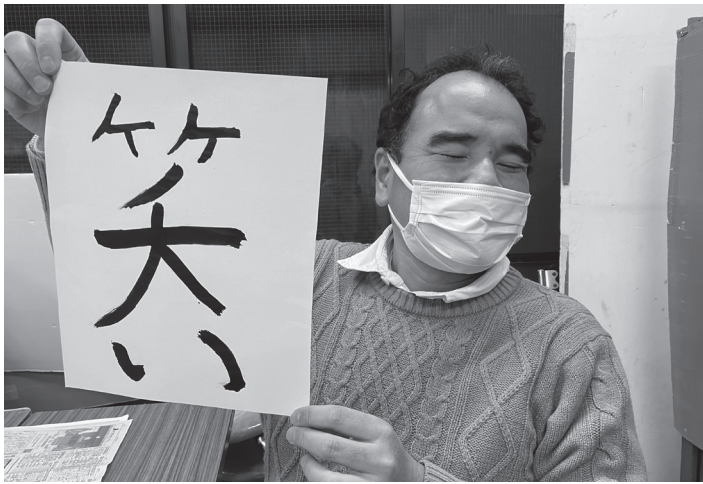
るその言葉に、まだまだ多くの障がいのある方が翻弄されるのではないかという懸念が拭い去れない。それでも誰かのくしゃみ一つで視線が集まり、誰かが咳込むことで人は何となく離れていくという何とも言えない日常が出てくるのだろうか。と今から推測される。

とはいえ、でもこれってコロナ禍以前にもあった夜ふらの活動中にも時々あった光景のような気がする。

活動中の市バスの中で自閉的傾向がある方の常同行動に向けられる怪訝な表情、奇声を上げられるご利用者

を遠巻きに見られる視線。一緒にはできないかもしれないが、これも一種の同調圧力、同調行動の弊害なのだろうか。

結局、私たちのやるべきことは、コロナ前もコロナ後も変わらず、様々な困難にも向き合わないといけないことも沢山あるだろう。それでも私たちは夜ふららしく「笑い」飛ばせるようになりたいものである。



地活ふらっと「笑い」

支援センター「きらリンク」

「時間」

相談員 箕 浦 佐知子

ホームに付いた列車から溢れるように人が出てきて階段を上っていきます。幼児が階段を昇っていましたが、親は押し寄せる人が危なくて幼児を抱き上げようとしています。

幼児は自分の足で階段を上りたいがために、精一杯身体を反らせて親の抱き上げから逃れようともがいています。

遠い昔、我が子もおんなじことをしたな…と見入しながら、大人になった今の姿に感慨深いです。

私は京都での大学時代、障害児キャンプの活動をしていました。

久しぶりに京都へ戻ってきて、きらリンクで働かせてもらっています。

関係機関である施設さんを訪問した時、かつてキャンプで担当させていたいただいた方をお見かけしました。当時小学生だった方も今

は四十代後半でしょう。懐かしい思いは私一人の胸に閉まって、遠くから見守っただけで帰ってきました。

ご利用者やご家族とお話するとき、「今の姿しか知らない私であること」を意識するようになりました。どなたも、年齢分の時間が詰まって、今の姿になっておられる。

私が知らないその方の時間がどんなに長いかを、心してお話を聞いて、「なぜ拒否されるのだろうか」、「なぜにされるのだろうか」、「なぜ…」の内側の遙かさを知ります。

「今」しか知らない私には、その方の思いに寄り添うのは、たやすいことではないことを知ります。その方に失礼にならないように、安易にわかったつもりだけに、ならないようにと思っています。

支援センター「つなぐ」

入職一年目を振り返って

相談員 唐井 周子

昨年四月に入職し、一年が経とうとしています。振り返ると、本当にあつという間の一年でした。この一年で、たくさんの方の利用者の方との出会い、たくさんの方の学びがありました。

利用者の方がどんなことを思い、望みながら暮らされているのか、触れる機会を少しずつ増やすことができました。その中で自分ができるようなことができないのか、何をどこまでお手伝いするのが良いのかと、迷い悩みながら、一年を過ごしていたように思います。

今年度、相談支援専門員資格を取得して、計画相談の業務にも取り組み始めました。利用者の方のご意向を確認しながら、その方の生活全体に関わっていく相談支援専門員業務の責任の重さをあらためて感じています。

生活の主体はもちろん利

用者の方ですが、相談支援

専門員がどれだけその方の暮らし、体感されているしんどさを含めた思いを知っていて、それに対してどんな提案やアシストができるかで、暮らしがいくらでも変わってくるのではないかと考えると、身が引き締まる思いです。

ご相談の中には、「制度にあてはまらない」「前例がない」「社会資源がない」などの困難さがあることも多いですが、自分の知っている制度、経験、知識：といった枠組みの中で「できない」と判断せずに、「どう行動すればそれを実現できるのか」を考え、取り組む大切さをこの一年で学んだように思います。柔軟な思考と好奇心を持って、新しいことを知りながら、この仕事を続けることをこれからの目標にしていきたいと思っています。

路地裏ステーションニュース

西陣児童館

「居場所」

月契約職員 新 幸志郎

月契約職員として、四年間西陣児童館でお世話になりました。有難うございました。週に一〜二回のペースでしたが、元気な子どもたちと一緒に過ごしたことは、私にとって大学の講義では学べない生きた学びとなりました。

子どもたちが「マスク（私のあだ名）」といいながら笑顔で走り寄ってきてくれると、「さあ、今日も子どもたちに楽しい時間をつくるぞ!」とやる気のスィッチが入りました。私が子どもたちとの関りで意識していたことは、子どもたちの不安や悩みを忘れさせないこと、色々な意見はあるとは思いますが、私は泣いてい

る子どもや他の子と上手く馴染めない子どもに対して積極的に声をかけ、巻き込み、遊びに繋げることを心がけてきました。泣いていた子どもが笑顔で帰っていくのを見るのは非常に嬉しかったです。

西陣児童館の子どもたちは、学校や学年の違いを超えてみんなが仲良く、職員の先輩方がそれを温かく見守り指導しておられて、素晴らしい環境だと感じています。私自身も小学生三

年生まで地元の児童館でお世話になっていました。卒業後も遊びに行ったり、イベントを手伝ったりと、今でも気軽に覗くことが出来る場所となっています。今通っている子どもたちにとって中学生、高校生になっても西陣児童館が心の拠り所となり、ふと立ち寄れる場所であってほしいと願っています。家庭と学校だけでなく、自分にはもう一つ居場所があったということをお願い出すときが必ず来ると思います。



新くんと一緒にイエーイ！（学童クラブ）



活動日誌

【本部・京都市民福祉センター】

- 1月**
 - 16日 キャリアパス&人材育成計画推進委員会
 - 23日 産業医面談・安全衛生委員会
 - 21日 月曜集会
 - 21日 正規職員会議
 - 28日 虐待・身体拘束防止研修
 - 28日 レクリエーションスペース「ふらっと」
- 2月**
 - 7日 福祉就職フェア事前説明会
 - 9日 総務委員会
 - 12日 西陣の朝市マルシェ
 - 13日 月曜集会
 - 16日 レクリエーションスペース「ふらっと」
 - 20日 キャリアパス&人材育成計画推進委員会
 - 27日 産業医面談・安全衛生委員会
 - 27日 月曜集会
- 3月**
 - 1日 ステップアップ研修
 - 4日 ①フォローアップ座談会
 - 5日 理事会
 - 5日 FUKUSHI就職フェア
 - 5日 KYOTOへの出展

【西陣児童館】

- 6日 レクリエーションスペース「ふらっと」
- 10日 福祉職場見学会
- 13日 虐待防止マネージャー会議
- 17日 月曜集会
- 19日 ステップアップ研修
- 19日 ①②委員会
- 20日 評議員会
- 27日 キャリアパス&人材育成計画推進委員会
- 27日 虐待防止委員会
- 27日 産業医面談・安全衛生委員会
- 27日 月曜集会

- 1月**
 - 20日 職員向け「防犯対策講座研修」(上京警察協力)
- 2月**
 - 6日 華頂大学実習生受け入れ(17日まで)
 - 15日 乾隆小学校運営協議会(中山)
- 3月**
 - 4日 児童クラブ新規利用保護者説明会
 - 18日 出前児童館「カラダをつかって遊ぼう&ロケット作り」
 - 27日 デイセンターと合同避難訓練
 - 28日 スプリングデイキャンプ指月林
 - 29日 児童クラブ卒部生に贈る会

【居宅活動日誌】

- 1月**
 - 15日 居宅職員会議・サービスマニフェスト提供責任者会議
 - 16日 居連協定例会
- 2月**
 - 9日 居連協定例会
 - 12日 居宅職員会議・サービスマニフェスト提供責任者会議
 - 24日 ガイドヘルパー養成講座(25日・26日)
 - 28日 居連協定例会
- 3月**
 - 7日 上京ねっと
 - 19日 居宅職員会議・サービスマニフェスト提供責任者会議

【デイセンターふらっと】

- 1月**
 - 6日 ご利用者の健康診断開始(3月10日迄)
 - 10日 家族会勉強会
 - 20日 同志社大学社会福祉士実習受け入れ・前半の部3名(3月1日まで)
- 2月**
 - 6日 同志社大学社会福祉士実習受け入れ・後半の部2名(15日まで)
 - 13日 華頂短期大学実習生受け入れ(24日まで)
- 3月**
 - 6日 同志社大学社会福祉士実習受け入れ・後半の部2名(15日まで)
 - 13日 華頂短期大学実習生受け入れ(24日まで)

【きらリンク】

- 1月**
 - 6日 北部自立支援協議会運営会議
 - 11日 北部自立支援協議会夜のNOB交流会
 - 11日 北部自立支援協議会支援センター部会
 - 21日 障害支援区分審査会
 - 26日 北部自立支援協議会全体会議
 - 30日 全体会議
- 2月**
 - 14日 基幹支援センター事業権利擁護連絡会
 - 22日 基幹センター会議
 - 27日 北部自立支援協議会
 - 27日 児童養護自立支援連絡会
- 3月**
 - 9日 基幹型支援センター研修事業北部圏域相
 - 10日 障害者地域生活支援センター連絡会議
 - 11日 京都府ITサポート事業コミュニティセッション支援連続講座(12日・21日)
 - 15日 左京こころのふれあいネットワークワーキング会議
 - 16日 北部自立支援協議会夜のNOB交流会
 - 28日 京都市自立支援協議会医療的ケア部会

【にじじい】

- 1月**
 - 6日 中部自立支援協議会事務局会議
 - 10日 上京ネット家族懇親会
 - 10日 医療的ケア児等コイデイナー事例検討会
 - 11日 デイナー事例検討会
 - 12日 機能集約合議体
 - 19日 中部自立支援協議会運営会議
 - 26日 医療的ケア専門部会
 - 30日 医療的ケア児等コイデイナー養成研修講師派遣(31日)
- 2月**
 - 9日 機能集約合議体
 - 10日 ひきこもり支援会議
 - 22日 基幹支援センター会議
 - 23日 医療的ケア専門部会
 - 24日 スキルアップ研修
- 3月**
 - 2日 医療的ケア専門部会「お話を聞く会」
 - 3日 中部自立支援協議会事務局会議
 - 6日 生活支援会議
 - 7日 上京ねっと定例会
 - 10日 中部自立支援協議会児童専門部会
 - 15日 障害者地域生活支援センター連絡会議
 - 20日 上京ネット勉強会
 - 22日 居連協理人会
 - 22日 基幹支援センター会議

※毎月、施設長会議・主任会議を実施しています。その他、諸事業活動においても定例活動を行っております。

センター往来

◎救世軍京都小隊様より、クリスマスにお米60キロを寄贈していただきました。ご利用者の食事用としてありがたくいただきました。

◎1月21日(土) 正規職員会議を行いました。

◎2月9日(木) 総務委員会を開催いたしました。

◎2月12日(日) 「西陣の朝市マルシェ」が開催され、遊び場ブースのお手伝いで参加させていただきました。

した。

◎2月18日(土) 京都ブライトンホテルで行われた「嘉楽親睦会」へ市民福祉センターの館長中山が参加させていただきました。

◎3月5日(日) FUKUSHI 就職フェア KYOTOへ数年ぶりに出展させていただきました。

◎3月4日(土) 理事会
3月19日(日) 評議員会が開催されました。

2022年度補正予算
2023年度予算と事業計画について承認されました。

地域生活支援事業 バックアップ会員報告

皆様から心温まる会費を頂き心より感謝申し上げます。

二〇二二年度報告
福井 治子 鬼塚 義正
小西 秀和
計七口(七千円)
累計 百十六万四千三千円

(順不同・敬称略)
二〇二三年
三月二十三日現在

郵便振替口座
(バックアップ
会員専用振替口座)
加入者名
地域生活支援事業委員会
口座番号
〇〇九〇〇三一三三七一九
今後ともどうぞよろしく
お願い申し上げます。



決意をこめて！(学童クラブ)



春は出会いの季節♡(パレード)

お知らせ

◎桜まつりについて
長きにわたり西陣会のまつりとしてみなさまにご協力いただき親しんでいただけてきた「桜まつり」は、今後は別の季節に、これに代わるまつりを行うことを検討中です。

◎月曜集会について
4月より時間を変更して19:00から行います。当面の予定は4月10日、4月24日、5月8日、5月22日、6月12日、6月24日、7月10日です。日程変更もありますので、事前にご連絡いただきお越しく下さい。

◎京都市放課後等デイサービス支援事業は、プロポーザルによる選定の結果2023年度も三法人(カトリック京都司教区カリタス会・京都基督教福祉会・西陣会)が受託することに決定しました。

◎60周年記念新聞が完成しました。お届けあるいは送付をいたします。お目通しただけでしたら幸いです。



住所変更のある方、当機関誌のご不要な方はFAXにて(075) 451-5700迄ご連絡下さい。

社会福祉法人 西陣会

・法人本部

・京都市民福祉センター

・地域活動支援センター
ふらっと

・地域生活支援事業
レスパイトサービス

TEL (075) 451-1897
FAX (075) 451-1570

・西陣児童館

・京都市放課後等
デイサービス支援事業

TEL (075) 451-1897
FAX (075) 451-1570

・西陣会居宅サービス係
相談支援事業所 ぎざな

TEL (075) 441-7140
FAX (075) 441-1529

・デイセンターふらっと

TEL (075) 441-7140
FAX (075) 441-1529

・西陣会ホームとなり
ショートステイ ゆう

TEL (075) 461-1068
FAX (075) 441-1529

・西陣会ホームきたまち

TEL (075) 461-1355
FAX (075) 461-1356

・京都市中部障害者地域生活
支援センター にじん

TEL (075) 417-1630
FAX (075) 451-1369

・京都市北部障害者地域生活
支援センター きらリンク

TEL (075) 752-1006
FAX (075) 752-1007